

型わく支保工 概要書		型わく数量		1階スラブA = 157m <sup>2</sup> 階段部 A = 30m <sup>2</sup>		コンクリート 数量		躯体数量V = 390m <sup>3</sup> 1階スラブV = 48m <sup>3</sup>	
		支柱の長さ		一般		梁部 2.868m、3.408m スラブ部 3.908m		最高 3.908m	
		工期		組立		平成15年5月10日 ~ 平成15年5月15日			
		解体		平成15年5月15日 ~ 平成15年5月20日					
支保工の種類		ア, パイプサポート イ, ウイングサポート ウ, 単管 エ, 組立鋼柱 オ, わく組 カ, 木材支柱 キ, その他 ( )							
材質寸法		せき板 合板ベニヤ板 (t=12mm)		支柱		パイプサポート (鋼製)			
		根太 鋼管バタ (60mm × 60mm)		水平つなぎ		単管 ( 48.6 )			
		大引き 鋼管バタ (60mm × 60mm)		根がらみ		単管 ( 48.6 )			
梁式 ( ビーム ) 支保工の有無		有 ・ 無		形式 :		スパン :		m	
設計荷重・許容荷重		各部の構造・組立及び補強内容						別添図面	
1, 支柱式支保工		1 脚部		滑動防止、		沈下防止			
(1) 垂直荷重 鉄筋コンクリート重量 単位体積重量 ( 23.5 ) 支保工 ( 0.28 )				根がらみ (2方向) 単管 ( 48.6 ) クランプ ( 直交・身在 )		敷板・敷角 ( なし ) コンクリート上 ( 土間コン直置き )		No. 型枠計画図	
		上端		滑動防止 根太と大引き 大引きと		取付方法 ( 差し込み )		No. 型枠計画図	
設計 設計図 受持面積Max 支保工1本・組当り ( 6.228 ) KN メーカー仕様書等による許容支持力 支保工1本・1組当り ( 7.50 ) KN ( 6.228 ) < ( 7.50 ) ・ OK		部		緊結材 サポ 斜材		( 在 )		No. 型枠計画図	
		水平つなぎ		設置 LC-6 単管		( 自在 )		No. 型枠計画図	
(2) 水平荷重 ・鋼管わくを用いる場合 T = 設計 = 0.25 ・ = 許容 単管又はチエ ( 0.35 ) KN ( 0.28 ) < ( 0.35 ) ・ OK		5 水平荷重補強材		設置方法 単管 ( 48.6 ) にクランプで締め付け クランプ ( 直交・自在 )				No. 型枠計画図	
		6 その他		(イ) 開口部・ダメ穴上の組立方法 (ロ) 段上組立の措置 (支柱間の敷板、敷角の緊結固定) (ハ) 曲面型枠における支柱の控え、浮き上り防止					
		必要により補強							

<p>2, 梁式支保工  (軽量ビーム、ペコビーム)  (支柱式支保工に準ずる)  (1) 垂直荷重  鉄筋コンクリート重量  単位体積重量 (KN / m<sup>3</sup>) × 厚さ (Dm)  ( ) KN / m<sup>2</sup>  支保工  ( )  衝  設計  ビームス  メーカーカタログの許容呵力  M = KN · m<sup>2</sup>  これよりビームピッチを算出する。  ビームヒッチは ( ) m  M = WL<sup>2</sup> / 8 = x x<sup>2</sup> / 8  よって  ビームピッチ M × 8 / x<sup>2</sup></p>	<p>今回は梁式支保工 (ビーム) の使用はありません。</p>
<p>3, 水平力の検討  鋼管柱を支柱として用いる場合、  支保工の上端に設計荷重の2.5%  に相当する水平力の荷重が作用し  ても安全な構造    水平力材許容応力 &gt; 水平応力 · OK    鋼管柱以外のものを支柱として用  いる場合、支保工の上端に設計荷  重の5%に相当する水平方向の荷  重が作用しても安全な構造  水平力材許容応力 &gt; 水平応力 · OK</p>	<p>(安衛則242条8号の措置が講せられるよう組立図にしめされているものは、  左の検討事項は済みとして取り扱ってもよい)</p>

